登企第　　　１０３　号
平成２０年１０月２４日

登別市市民自治推進委員会
会長　　田　中　寛　志　　様

登別市長　　小笠原　春一

鷲別地区の活性化事業、ステップアップ事業、地元の観光地の体験事業に関する提言について（回答）

秋冷の候、貴殿におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より当市行政活動の推進につきましてご協力いただきありがとうございます。

さて、平成２０年４月２８日付　「鷲別地区の活性化事業、ステップアップ事業及び地元の観光地の体験事業に関する提言」について、ご提言いただいた内容を真摯に受け止め、検討させていただいた結果を次のとおり回答させていただきます。

記

１　提言に対する回答　　　　　　　別紙のとおり

【担当】
総務部企画グループ
Tel　0143－85－1122
fax　0143－85－1108

提言書回答：　１　鷲別地区の活性化事業

（課題・問題）

鷲別町周辺は、古くから集落が形成されたことなどから、地域の憩いの場などに利用できる十分な広さを持ったオープンスペースがない。

また、鷲別町周辺は新たな観光資源になりうる可能性を秘めているが、有効な活用が図られていない。

（提　　言）

漁港・海岸の公共用地などを有効に活用、地域に密着した賑わいのある憩いの場として活用する。

また、鷲別岬は、蘭法華岬や隣の室蘭市のシンボルである白鳥大橋が盛観できるなど最高の眺望ポイントであるため、これを新たな観光のスポットとして対外的にＰＲし、地域の活性化を図ることが必要である。

（回　　答）

平成２０年１０月１１日、鷲別漁港を拠点として、「鷲別海岸海洋浴ウオーキング祭り」が開催されました。

この祭りは、登別商工会議所の企画により鷲別海岸イベント実行委員会が実施しているもので、今年度が２回目となります。

当日は、約３００名の参加者を得て、準備運動の後ウオーキングを開始し、往復５ｋｍのコースを潮風に当たりながら散策し、その後、血圧測定などのコーナーで測定したり、お楽しみ抽選会などにより楽しんでいました。

鷲別漁港から富岸川までの海岸施設は、緩傾斜護岸により整備が進められ、親水性に配慮されるとともに、同区間においては散策することが可能となっていることから、多くの住民が散策やジョギングで利用しています。

鷲別地区には、大きなイベントを実施するところは少ないと思いますが、鷲別

漁港などの公共用地や鷲別公民館などの公共施設については、地域の活性化を図るため、その有効利用について地域の皆さんと協議を進めてまいります。

　次に、鷲別岬についてでありますが、この周辺については防風保安林に指定されているとともに埋蔵文化財の包蔵地となっていることから、工作物の設置については、できないこととなっています。

　したがって、新たな施設整備をすることはできませんが、作業用道路として整備した現在の散策路については、市民の皆さんが散策する際に支障のないよう、修繕等の対応をしてまいりたいと考えております。

提言書回答：　２　ステップアップ事業

（課題・問題）

　近年、登別温泉においては、従来の団体旅行（ガイド付き）から自由なプラニングができる小グループ旅行が中心となってきているとともに、外国からの観光客が増加するなど旅行形態が変化しているが、これらに対する対応が十分ではない。

（提　言）

　携帯電話の機能を活かした情報の受発信環境の整備を図り、より詳細な情報の提供や外国からの観光客に対する情報を提供することでサービスの質を高めるとともに、観光客の増員を図る。

　また、この機能を利用し地場産品（農水産関連品など）の情報提供も行い、地場産業の活性化を図る必要がある。

（回　答）

　ご指摘のとおり、近年の旅行形態は、団体旅行（受動的な観光形態）から小グループ（能動的な観光形態）へ移行しており、多様なニーズに対応することが求められており、これまでの景勝地中心の観光巡りよりも、体験型・学習型のような知的体験型のモデルの構築が必要となっています。

　登別温泉では、平成２０年４月、コンシェルジュ機能を有した「登別ゲートウエイセンター」がオープンし、観光インフォメーションの役割を果たすとともに、自然ガイド業務を展開しておりますが、１０月１８日、１９日に実施された「地獄谷ウオーク」においては、１０００人規模の利用があり、今後の利用拡大が期待されています。

　また、多くの温泉地で課題となっているホテルや旅館における観光客の囲込み対策については、大湯沼川を利用した足湯、平成１８年度から実施している鬼火や本年度実施している泉源公園でのイベントなどの実施により、多くの観光客が商店街に繰り出しています。

　近年増加の一途となっている外国人観光客の対応については、本年２月、登別観光

協会がビジットジャパン案内所に加入し、韓国語・中国語・英語による電話通訳を可能にするとともに、観光案内版における表記を日本語を含め４カ国語表記とし、外国人への対応を進めています。

次に、観光情報の提供については、登別市のホームページにおいて「登別観光ガイド」として「温泉マップ」や「散策マップ」、「名所案内」や「イベント情報」など多くの情報を提供しており、また、各ホテル・旅館においても、施設案内・アクセス情報・宿泊予約などの情報を提供しております。

また、「携帯電話の機能を活かした情報の受発信環境の整備」については、市内の例として、登別中央商店会において、加盟店からのお得情報がメールで配信される地域密着型メールチラシ「ピピット情報クラブ」の配信を行っている例があります。

携帯電話による観光情報や地場産品情報の受発信については、情報量の制限や情報提供のあり方、システム開発などの課題もあることから、今後、観光協会や農林水産団体などと連携協議し、研究してまいります。

提言書回答：　３　地元の観光地の体験事業

（課題・問題）

　登別市民は、登別温泉など観光の知識が十分でないことから、対外的な旅先で地元観光のＰＲが出来ない。

　また、登別市民でありながら、普段、気軽に温泉を楽しめる所の知識が少ない。

（提　言）

　市民に対して登別温泉などの観光の情報を周知することで、温泉の日帰り入浴などの集客を促進する。市民は実際に体験することで登別温泉のＰＲをするための知識を得ることができ、体外的にＰＲを行うことにより観光客の増加が図られる。

　さらに、登別温泉は全国に自慢できるという意識を市民全体が共通して持つことにより、地区別（部落的）意識が払拭され一つにまとまる効果も期待できる。

（回　答）

　本年は、登別温泉開湯１５０年にあたるとともに、登別温泉バイパスが完成するなど、登別温泉にとっては記念すべき年となり、7月２０日（日）には、「登別温泉開湯１５０年記念式典及び登別温泉バイパス祝賀会」が開催されるとともに、間欠泉を利用した泉源公園において、オープンセレモニーが開催されました。

　この泉源公園では、１０月１日まで開湯１５０年記念イベントが毎週水曜日に開催され、観光客ばかりではなく多くの市民が楽しんでいました。

　また、市では、開湯１５０年を市民の方々に理解していただくため、「広報のぼりべつ」に毎月、特集記事を掲載し、登別温泉の歴史など情報を提供しております。

　市の観光情報については、広報などを通じて随時情報提供しておりますが、各種パンフレットの配布や「観光ポケット情報」の作成など、市民の皆様が登別温泉に親しみを持てるような方策を検討していくため、観光協会などと協議してまいります。

　次に、登別温泉における日帰り温泉につきましては、各ホテルにおいて対応しており、平成１８年度においては、２２７千人、１９年度においては、２３２千人の多く

の方々が利用しています。

料金については、そのホテルにより違いがありますが、「さぎり湯」や「いずみヴィラ」のような比較的低価格のところもあり、また、白老町虎杖浜温泉には、たくさんの日帰り温泉があり、登別温泉とは違った泉質を楽しむことができますので、利用いただきたいと思います。

なお、市内の日帰り温泉については、別紙のとおり、町内会を通じ各戸に配布しておりますが、各ホテル・旅館においては、「昼食パック」などを企画していますので、それらの情報について、機会を捉えて周知していきたいと考えております。